

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『スパイキッズ4D:ワールドタイム・ミッション』	○	○			
『セカンドバージン』	○	○	○		
『シネマ歌舞伎 一谷嫩軍記 熊谷陣屋』	○		○		

■ 映画プログラム ■

『グリーン・ランタン』

『世界侵略:ロサンゼルス決戦』

『親愛なるきみへ』

『スリーデイズ』

『ファイナル・デッドブリッジ』

■ 松竹系 9月公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『再春菘種蒔 舌出三番叟』		○		
	『恋飛脚大和往来 新口村』	○	○		
	『菅原伝授手習鑑 寺子屋』	○	○		
	『勢獅子』	○	○		
	『杓手鳥孤城落月』	○	○	○	○
	『三代目中村又五郎・四代目中村歌昇襲名披露口上』	○	○		
	『菅原伝授手習鑑 車引』	○	○		
日生劇場	『増補双級巴 石川五右衛門』	○	○		
日生劇場	『少年たち』		○	○	○
南座(京都)	『喜劇 女房は幽霊(ゴースト)』	○		○	○
松竹座(大阪)	『悪太郎』	○			
	『若き日の信長』	○			
	『天衣紛上野初花 河内山』	○			
	『華果西遊記』	○			
	『勸進帳』			○	○
大阪新歌舞伎座	『幸助餅』	○			
	『御撰勸進帳』	○			
	『男女道成寺』	○			
	『人情噺文七元結』	○			
	『双蝶々曲輪日記 引窓』	○		○	○
	『お祭り』				
地方巡業(西コース)	『一本刀土俵入』	○			
	『雨の五郎』			○	○
地方巡業(新派)	『義経千本桜 下市村茶屋の場・同釣瓶鮎屋の場』	○			
	『女の一生』			○	

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

(新規登録資料案内 続き)

■ 他社公演資料 ■

あうるすぽっと	8月	『わたしにさよなら 青春編』プログラム、台本
	9月	『ミュージカル コレット・コラージュ 改訂版』プログラム
青山劇場	8月	『レッドクリフ 戦』プログラム
赤坂RED/THEATER	9月	『アルトー24時』プログラム
吉祥寺シアター	9月	『連結の子』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	8月	『おれはなにわのライオンや』プログラム、台本
		『人形劇団ブーク オズの魔法使い』プログラム
		『ひとり芝居 杉村春子物語 忘れ得ぬひと』プログラム
		『松井誠ひとり芝居 花顔 (はなのかんぼせ)』プログラム
国立劇場大劇場	9月	『十牛図と秋庭歌一具 新たなる伝統の創造』プログラム
国立文楽劇場	8月	『第二十一回上方歌舞伎会』プログラム、台本
		『松尾塾子供歌舞伎2011』ポスター
渋谷区伝承ホール	8月	『渋谷金丸丸伝説II』プログラム
青年座劇場	8月	『ほととぎす・ほととぎす』プログラム
前進座劇場	8月	『挑むV o 1. 3 歌舞伎役者の粹と意気』プログラム
帝国劇場	9月	『DREAM BOYS ドリームボーイズ』プログラム
東京オペラシティコンサートホール	9月	『話芸・和芸 難民を助ける会チャリティショー』プログラム
中野テアトルBONBON	9月	『はじめてのにんげんがり』プログラム
博多座	9月	『ミュージカル 三銃士』プログラム、ポスター
パルコ劇場	8月	『クレイジーハニー』プログラム
	9月	『リーディングドラマ もしもキミが。』プログラム
御園座	8月	『芸道五十周年記念北島三郎特別公演』プログラム
三越劇場 (日本橋)	8月	『喜劇 姑は推理作家』プログラム、台本
		『友情 秋桜のバラード』プログラム
	9月	『100年のI love you』プログラム
明治座	9月	『小林幸子特別公演』プログラム、台本
ル テアトル銀座	8月	『レッドクリフ 愛』プログラム

■ 書 籍 ■

『淡路人形浄瑠璃元祖上村源之丞座座本引田家資料』		淡路人形協会
『菊池寛と大映』	菊池夏樹 (著)	白水社
『芸と人 戦後歌舞伎の名優たち』	織田紘二 (著)	演劇出版社
『コレクションに見るロシア演劇のモダニズムとアヴァンギャルド』		早稲田大学演劇博物館
『最新 映画産業の動向とカラクリがよ〜くわかる本』	中村恵二+有地智枝子 (著)	秀和システム
『字幕の名工 秘田余四郎とフランス映画』	高三啓輔 (著)	白水社
『写真で見る消えた大阪の宝』	中村哲 (著)	日本機関紙出版センター
『三味線音楽 趣味的研究雑記』	真野義久 (著)	私家版
『三味線音楽 長唄読本 七代目勝三郎よもやま話』	杵屋勝三郎-7世 (著)	出版芸術社
『全生庵蔵・三遊亭円朝コレクション幽霊画集』		全生庵

(新規登録資料案内 続き)

■ 演劇雑誌 ■

『AIVA』2011 SPRING Vol. 3

『AAC』2011年No. 70

『あぜくら』平成23年9月号

『文楽通信かわら版』8号

『舞踊芸術』2011年9月号

『Confetti』2011年NOVEMBER Vol. 83

『伝統文化新聞』2011年(64号)

『演劇ぶっく』2011年10月号No. 153

〔《特集》表紙のヒト 上川隆也/NACSTYLE 大泉洋/ウーマンリブ『サッドソング・フォー・アグリードーター』宮藤官九郎×田辺誠一/『PLAYZONE'11 SONG&DANC'N.』今井翼〕

『演劇界』2011年10月号

〔《特集》歌舞伎の未来へー今、歌舞伎にできることー 対談：坂田藤十郎×市川團十郎、中村吉右衛門×中村又五郎、片岡仁左衛門×坂東玉三郎/座談会：坂東亀三郎×坂東亀寿×尾上松也/30の質問 市川猿之助 《インタビュー》中村芝雀〕

『演劇博物館』2011年Vol. 105

〔《特集》「LIFE with ART~ダムタイプ『S/N』と九〇年代京都~」/「七代目市川團十郎展一生誕二二〇年に寄せて」/「中国人留学生と新劇展」/「ピーター・ブルック展(仮)」/「世阿弥を継ぐ一十五世観世大夫元章の革新」/「日活向島と新派映画の時代展」〕

『芸劇、変身中。』2011年SUMMER 1号

『悲劇喜劇』2011年10月号

〔《特集》帝劇開場百周年 《掲載戯曲》『細雪』菊田一夫脚本 堀越真潤色〕

『邦楽の友』平成23年10月号

『ほうおう』2011年11月号

〔《インタビュー》尾上菊五郎/尾上松緑 《特集》新派四季暦 感動新た!新派版『女の一生』再演〕

『喝采』2011年12月〔《特集》博多座文楽公演〕

『喝采』2012年1月〔《特集》博多座一月公演 Endless SHOCK〕

『国立演芸場公演ガイド』平成23年10月号

『メセナnote』2011年Autumn 70号〔《特集》メセナにおけるプロボノの可能性〕

『ミュージカル』2011年9月-10月号〔《特集》『ロミオ&ジュリエット』/異彩を放つミュージカル〕

『日本芸術文化振興会ニュース』平成23年10月号

『日本照明家協会雑誌』2011年9月号

〔《インタビュー》渡辺恵治孫さんに聞く 《特集》平成22年度日本照明家協会協会賞 優秀賞を受賞して 舞台部門、テレビ部門/新進芸術家海外研修制度、経験者による座談会/北海道四季劇場〕

『日本舞踊』63巻10月号

〔《特集》秘曲・新曲サロン 長唄 冬の山姥/舞踊写真教室 新内 雪 浦里〕

『大向う』平成23年10月号

『ラ・アルプ』2011年10月号

〔《特集》『オペラ座の怪人』/稽古場レポート『劇団四季ソング&ダンスThe Spirit』『コーラスライン』『オペラ座の怪人』『ウィキッド』〕

『別冊サブテレニアン』2011年8月17日

『シアターアーツ』2011年秋(48号)

〔《特集》翻訳者の使命 《掲載戯曲》『キル兄にゃとU子さん』大信ペリカン〕

『シアターガイド』2011年11月号

〔《特集》「あゝ、荒野」松本潤 蜷川幸雄 小出恵介/「猟銃」フランソワ・ジラル&中谷美紀〕

『テアトロ』2011年10月号

〔《特集》日本演劇・リーダーの条件 《掲載戯曲》岸田國士的なるものをめぐって「果樹園に降る雨」竹本稜 「曼珠沙華」阿藤智恵 「はっさく」石原燃/「カミサマの恋」畑澤聖悟〕

『座・高円寺』No. 6

『the座』2011年70号〔「キネマの天地」〕

(新規登録資料案内 続き)

■ 映画雑誌 ■

『ドラマ』2011年10月号

[[掲載シナリオ]]『絶対零度 特殊犯罪潜入捜査』浜田秀哉 第1話 第2話/『鈴木先生』古沢良太 《特集》シナリオ講座 西岡琢也「シナリオづくりーとおきの話」]

『映画テレビ技術』2011年10月号

[[特集]]映画『天国からのエール』制作ノート/映画『豆富小僧』のCG制作について/ファイルベースの課題とこれから/ヨーロッパにおけるフィルム・アーカイヴの現状]

『映画秘宝』2011年11月号

[[特集]]オレたちの選ぶ映画ヒーロー大集合! /海老蔵『一命』&三池崇史の仕事2001-2011]

『衛星劇場プログラムガイド』2011年10月号

『キネマ旬報』2011年10月上旬号

[[特集]]映画はいま、“原点”に還る 三池崇史 市川海老蔵「一命」/映画人が考える原発にまつわること/阿部寛/森山未来]

『キネマ旬報』2011年9月下旬特別号

[[特集]]アウトサイドを駆け抜ける 原田芳雄1968-2011/進化する「スター・ウォーズ」/アニメーション作家 山村浩二のアトリエ/日本映画の秋を彩る女優たち/「探偵はBARにいる」]

『日経エンタテインメント!』2011年10月号

[[特集]]K-POP&韓流完全ガイド2011/CMが映すニッポンの今]

『ロケーションジャパン』2011年10月号

[[特集]]この秋、注目の2大聖地へ! /空のまち、“成田”に異変!? 新たなブームは女子がつくる! /ロケ地で選ぶ 観たい! 行きたい! 映画&ドラマ102選/阿部寛/向井理/大泉洋]

『SCREEN』2011年11月号

[[特集]]2012新春映画超速報/美しき男たち/思い出の美少年スターたち/TV界のNEWイケメンたち/英国美形アクターの系譜/クラシック名画に酔う秋]

『シナリオ』2011年11月号

[[掲載シナリオ]]『一命』山岸きくみ/『アジアの純真』井上淳一 《特集》新連載 井手雅人の遺したノート 古田求]

『シナリオ教室』2011年10月号

[[掲載シナリオ]]第51回「モンテカルロ・テレビ祭」テレビフィルム部門 最優秀作品賞受賞作 TBSドラマ『塀の中の中学校』内館牧子 《インタビュー》内館牧子]

『シネ・フロント』2011年9月号

[[インタビュー]]新藤兼人『一枚のハガキ』 《特集》「あしたが消えるーどうして原発?ー」/「24000年の方舟」/「核のない21世紀をーヒロシマからのメッセージ」]

『シネフェックス』2011年OCTOBER No. 22

[[特集]]「X-MEN:ファースト・ジェネレーション」/「マイティ・ソー」/「プリースト」]

『松竹(社報)』2011年(165号)

専門図書館協議会関東地区協議会
国立国会図書館分館 見学会

見学日：2011年9月8日
参加者：武藤 祥子



図書館側から見たステンドグラス

国会議事堂の中に図書館がある事をご存知だろうか。国会議事堂のシンボルである中央塔。その内部の2階から6階まで吹き抜けになっている中央広間の上部四方に、半円型のステンドグラスが嵌っている写真は、よくWebなどでも公開されている。しかしそのステンドグラスの裏側の回廊がコの字型の国会図書館分館になっている事は、一般にはほとんど知られていない。中央塔の4階から5階（5階は書庫）にあるこの図書館部分は議事堂の外側からは見えず、議員会館の中庭からしか見えない構造になっている。今回はこの知られざる国会図書館分館を見学させて頂いた。

役割・沿革

国会図書館は国会に属する機関である。その諸機能のうち、第一の役割である国会のための調査サービスを担っているのが、国立国会図書館調査及び立法考査局という組織であり、その閲覧施設の一つがこの分館である。（調査及び立法考査局の閲覧関連施設としてはほかに、国立国会図書館の本館に議員閲覧室・研究室、新館に議会官庁資料室がある）今でこそ分館となっているが、国会議事堂の建設時には両院の図書館があった場所であり、昭和23年に両院図書館を統合して国会図書館が発足した当時は、この場所が本館で、いわば国会図書館の発祥の地なのである。

サービス対象

サービス対象は、国会議員のほか、議員秘書、衆参両院の事務局職員、報道関係者などの国会関係者のうち、議院の出入記事の発行を受けていて、議事堂に常時公用で出入りする事の出来る者、とされており、一般国民は残念ながら利用どころか入館することすら出来ない。

資料

国会図書館本館の所蔵資料の場合、多くが納本で成り立っているが、分館の所蔵する図書・雑誌・新聞はほとんどが購入である。図書は一週間に約100冊購入され、毎週金曜日には衆議院側カウンター横の新着図書コーナーに入れ替えて配架される。月・火曜は議員優先で、水曜以降は他の利用者に貸し出される。現在この新着図書コーナーの一角には、野田佳彦新総理著作コーナーが設けられてポップが立っていた。話題の新刊やベストセラーはいち早く購入され、配架時には合わせて書評なども棚に貼り出すきめ細かいサービスを行っている。また反対側の参議院側カウンター横には、国会議員やスタッフの出張・視察の準備で利用の多い旅行ガイドのコーナーが設けられている。（余談だが、議事堂のすぐ横の衆議院第一議員会館内にはJTB国会内支店もある）

新聞・切り抜きファイル・記事データベース

新聞は全国紙、主な地方紙（翌日にはほぼ入荷）、スポーツ紙、政党紙、業界紙、外国紙（3日遅れ程度で入荷）など日々約60紙が収集され、議員が地



カウンター横の新着図書コーナー
（左側2段目に野田総理コーナー）



最新刊の外国紙・スポーツ紙ラック

元の報道を確認するなど、利用も非常に多い。最新号は参議院側カウンター近くの新聞ラックに置かれ、最近三ヶ月分は衆議院側のやや離れた棚に、さらにそれより以前の前ものは外の廊下の棚に過去1年分が保存されている。縮刷版の無い東京新聞と産経新聞のみは2年分を保存している。

また、新聞のうち、朝日・毎日・読売・日経・産経・東京の6紙は切抜専用と同じ新聞を2紙購入し、連載記事と社説を、記事ごとに切り抜き、ファイリングしている。新聞記事検索データベースでは見られない掲載時の図表や写真などが確認出来る事や、実際に記事を確認する場合紙媒体が好まれるなどの理由から、この新聞記事ファイルは非常に多く利用される資料である。概ね掲載から5年間保存・提供し、館内OPACでキーワード検索も出来る。

各新聞社の記事検索データベースは館内端末で利用する事が出来る。調査局の国会向けホームページ「調査の窓」内でもこれらのデータベースが利用出来る。「調査の窓」は、館内WANで国会内にある議員の控え室からでも利用する事が出来るが、外部からアクセスする事は出来ない。

配架

ほとんどの資料が開架されており、自由に手に取って閲覧する事が出来る。また、資料の刊行された時期によって回廊の書架、4階書庫、5階書庫、と配架の移動が行われる。少し前にちょうど図書の入替えが終わったようで、最新2年以内に受入れた資料が開架書架に並び、それ以前の資料は4階の書庫に収められていた。また、さらに刊行時期が古い図書・雑誌は5階の書庫に移され、利用する場合は職員による出納となる。資料にもよるが保存期間は図書で10年、雑誌で5年、事典などの参考図書は既存の図書の新版が出版された場合、購入して入れ替えられる。ただし議事資料は製本されて全て保存される。(第一回帝国議会以来の資料約12,900冊を保管)

資料の移動に使用するエレベーターは、内外とも大変豪華な装飾であった。しかしこのエレベーターは天皇陛下も御乗りになるので、内部に傷を付けないように使用しなければならないそうだ。養生もしてはならないらしく、入れ替えの時にブックトラックで移動する際、職員の方は大変気を使うとの事である。

貸出

カウンターに申請して「利用者カード」を発行してもらえば、館外貸出も可能である。貸出冊数は5点まで。資料によって貸出期間は異なるが、最新の新聞・雑誌、綴じていない議事録以外の資料は、参考図書、名簿、新聞・雑誌のバックナンバーなどほぼ全部の資料が貸し出し可能である。

レファレンス

至急の調査依頼に対応するため、両院のいずれかで本会議、あるいは委員会が開会している間は、たとえ臨時の審議の場合や深夜に及ぶ場合も最後の会議が終わるまで開館し、職員が待機している。分館では資料の所蔵調査のほか、所蔵の参考図書を利用した簡単な事実調査を行っている。分館の資料だけでは調査出来ない場合は、調査及び立法考査局国会レファレンス課で対応する。調査及び立法考査局ではこうした依頼調査のほか、将来調査依頼が予測される国政の重要課題についてあらかじめ調査し、成果の一部を解説資料として継続的に刊行し、議員専用閲覧室に展示している。また、こうした調査をもとに、館内の職員閲覧室を会場として、国会議員や議員秘書を対象とした政策セミナーも開催している。

設備

コの字型の回廊や、その周りの書庫や閲覧室、4階と5階にフロアが分かれているなど、書架が点在しており、全体的に配架しづらく、図書館としては決して恵まれた施設とは言えない。そんな状況の中で、常に新しい情報を分かりやすく利用者に提供するための配架の工夫が随所になされていた。また、複雑な配架状況を利用者に知らせるため、書架・棚・ラックなどあらゆる場所に配架についての指示が表示してあった。



新聞の配架のお知らせ

以上、設備・蔵書など国会図書館本館に比べると非常に小規模ではあるが、ほとんどの資料が開架で貸出可能という点など、利用者にとって大変便利な図書館である。立法調査を専門とし、利用者も国会関係者に特化された専門図書館でありながら、様々な実用書が揃えられて一般的な図書館としての資料・情報をコンパクトに納め、必要な情報をすぐ手に出来るように機能させている点も素晴らしい。

1時間足らずの駆け足見学であったが、要所要所を見せて頂く事が出来、歩きながらお話しされる職員の方の説明も大変分かりやすく、分館の機能同様、情報が凝縮された密度の濃い見学会であった。

なお、分館見学後に、国会議事堂の中央広間、御休所、第一委員会室、参議院議場などを見学させて頂き、見学者一同大いに盛り上がったが、本題から離れるので、記述を省く。



4階衆議院3号書庫のレトロな電灯



レトロで豪華なエレベーター



新聞の保存期間・配架のお知らせ

● 所蔵資料展示案内 ●

第15回「切腹」展

展示期間：2011年9月30日～10月26日 於：松竹大谷図書館閲覧室

10月の展示は映画『切腹』の資料です。10月15日に公開される『一命』（三池崇志監督）と同じく、滝口康彦の短編小説『異聞浪人記』を原作としたこの映画は、昭和27年[1952]のデビュー以来『壁あつき部屋』や『人間の証明』といった現代劇を手がけてきた小林正樹監督の、最初の時代劇作品です。

—江戸時代初期、寛永7年(1630)。大坂の陣より10年以上が経過し、幕政を安定させるための大名家取り潰しが相次いだ時代、大名家の玄関先で、窮迫した浪人者が金を貰うために仕組む【狂言切腹】が流行した。この風潮をかねて苦々しく思っていた井伊家では、折から訪ねてきた福島家浪人を称する切腹志願の男に、半年前にも同じく福島家浪人で切腹志願の青年が尋ねてきた話を、家老自ら語り始める—



原作の『異聞浪人記』は文庫にして30頁ほどの短編で、残虐な描写などは一切ありませんが、『切腹』では、切腹、斬り合い、乱闘など原作では描写されなかったシーンが、生々しく映像で表現されてゆきます。クライマックスで主人公・津雲半四郎(仲代達矢)が演じた屋敷の中での凄まじい乱闘も、原作ではわずかに一行あるだけで、どのような闘いがあったかの説明は一切ありません。それだけに印象深く、読む側の想像がかきたてられる場面です。『切腹』では、荒れ狂う半四郎が血刀を振るい、井伊家家臣たちを次々と斬り倒してゆきます。『一命』でも、このシーンはありますが、『切腹』とは違う解釈で映像化されています。ここでは、その違いについてあえて触れませんが、『一命』をご覧になった後に、展示したスチールを見ていただくとヒントがあるかもしれません。『一命』鑑賞後は是非当館にお立ち寄り下さい。

『切腹』

昭和37年[1962] 松竹
滝口康彦原作(『異聞浪人記』より)
小林正樹監督、橋本忍脚色
出演:仲代達矢、三国連太郎、石浜朗、岩下志麻

『切腹』 主な受賞記録

- 第16回(1963年)カンヌ国際映画祭
・審査員特別賞
- 第17回(1962年度)毎日映画コンクール
・日本映画大賞
・音楽賞(武満徹)
・美術賞(大角純一・戸田重昌)
・録音賞(西崎英雄)
- 第13回(1962年度)ブルーリボン賞
・主演男優賞(仲代達矢)
・脚本賞(橋本忍)
- 昭和37年度キネマ旬報
・日本映画ベストテン第3位
・男優賞(仲代達矢)
- [キネマ旬報]第12回スチールコンテスト

■『切腹』関連資料展示一覧■

- 一、スチール 津雲半四郎(仲代達矢)
第12回スチールコンテスト受賞スチール 撮影:梶原高男
- 二、スチール 津雲美保(岩下志麻)
千々岩求女(石浜朗)
- 三、スチール 斎藤勘解由(三国連太郎)
- 四、スチール 沢瀧彦九郎(丹波哲郎)
- 五、スチール 沢瀧彦九郎(丹波哲郎)
津雲半四郎(仲代達矢)
- 六、スチール 津雲半四郎(仲代達矢)
- 七、スチール 津雲半四郎(仲代達矢)
- 八、スクラップ 撮影スナップ
※左頁の帽子とサングラスの男性=小林正樹監督
- 九、プレスシート(部分)津雲半四郎(仲代達矢)
- 十・十一、台本(準備稿)
- 十二、完成台本
- 十三、「キネマ旬報」昭和37年9月下旬号 『切腹』広告

● 展覧会レポート ●

前号でお知らせしました、松竹大谷図書館所蔵資料が出展されている展覧会の模様をご報告いたします。

茅ヶ崎市美術館

『音二郎没後100年・貞奴生誕140年記念 川上音二郎・貞奴展』

川上音二郎・貞奴に縁の深い茅ヶ崎の地で、満を持して開催されているこの展覧会は、2度にわたる海外公演の軌跡や遺品、パリで作られた二人の胸像はじめ、一座の興行の様子を伝える各国から集められた資料など、当時の世界情勢も視野に入れた幅の広い展示内容となっています。茅ヶ崎市美術館は、かつての音二郎・貞奴の屋敷だった〈萬成園〉跡地にたてられています。二人がこの地に住んだのは、九代目市川團十郎の別荘〈孤松庵〉に近いという理由でした。音二郎・貞奴が敬愛した九代目の偉業を偲ぶコーナーも設けられており、幼年期の六代目尾上菊五郎が修行したことで有名な〈孤松庵〉の模型や、往時の交友を伝える写真なども展示、歌舞伎ファンにもことさらうれしいものとなっています。11月27日(日)まで。



山種美術館

『知られざる歌舞伎座の名画展』

「知られざる…」というタイトルに、常日頃歌舞伎座に通い慣れていた方々は苦笑…と思いますが、そんな方こそ必見。幕間のお弁当タイムに、横目に見て通り過ぎていたあの絵が、この絵が…静寂な空間に、美しいライティングでその本領発揮。長年倉庫にしまわれていた絵なども数多く、今回山種美術館により、ひとつひとつに細かい解説がついたこともあり、まさに歌舞伎座と松竹の持つお宝を再認識する機会となりました。11月6日(日)まで。



編集・発行 公益財団法人 松竹大谷図書館 〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 ADK松竹スクエア3階
Tel 03-5550-1694 <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>